

授業科目名	【G】 【EF】	教養演習Ⅰ・Ⅱ 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区分 選択必修	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目						
授業形態	対面授業						
担当形態	単独	【G】 【EF】					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	英語のコミュニケーション			担当者	大倉 直子		
授業概要	【概要】	英語を実際に使えるようになるには、多様な場面や状況に応じたやり取りのしかたを学ばなくてはならない。学校で、オフィスで、旅行先で、相手の質問や意見を聴き取り、適切に答えてはじめてコミュニケーションが成立する。このクラスでは、基本的な英会話を学びながら、受講者の興味やレベルに合わせて、映画やアメリカンコミックを取り上げ、場面に即したコミュニケーション・スキルを磨き、使える英語を身につけていく。					
	【到達目標】	場面に応じた会話のしかたを学んで、英語でコミュニケーションができるようになる。					
履修条件	英語Ⅰの単位を取得済みであること。						
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	— (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	— (当てはまらない)					
他科目との関連性	平行して、英語Ⅱ～Ⅳを順に履修することが望ましい。また、ブリティッシュ・ヒルズ 語学研修や海外短期留学プログラムへの参加(いずれもオンライン実施の可能性有り)、言語圏文化論(英)、外書購読(英語)等の履修を通して、英語圏の文化について理解し英語の力を伸ばしていくことが望ましい。						
教科書	Person to Person, Third Edition, Level 1 Student Book 著者: Jack C. Richards, David Bycina, and Ingrid Wisniewska 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0194302128 ※教科書を持っていない人は、担当教員から直接購入すること。						
参考書	適宜、資料を配布する。						
評価方法	課題: 50%、会話・筆記テスト: 50%						
フィードバック方法	課題返却の際にコメントと模範解答を提示する。会話作成の際に添削を添付する。						
評価基準	「評価方法」における得点が90点以上で授業内容に深い理解がみられる者を「S」(Fカリキュラムは「A」)、80点以上で十分な理解がみられる者を「A」、70点以上で基本的な理解はできている者を「B」、60点以上で理解の一部に不十分な点がある者を「C」とし、60点未満で理解に誤りが多い者は程度に応じて「D」または「E」とする。なお、会話テストの欠席など、評価不能な場合には「F」とする。						
その他	英和・和英辞書(オンライン可)を用意する。 ※Gカリ:【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】 / EFカリ: 選択必修(γ)						

授業 科目名	【G】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【EF】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	選 択 必 修		【EF】2		【EF】2
授業内容	<p>以下のような多様な場面や状況に応じた英語のコミュニケーションを学んでいく。</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回: ガイダンス ・第2回～第10回: 基本のコミュニケーション <p>自己紹介して友達を作る、人の特徴について話す、出掛ける約束をする、感想を話す。 また、英語の音と日本語の音の違いについて学び、リスニングに取り組んで耳を鍛える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回～第14回: アメリカ社会におけるコミュニケーション <p>受講者の興味やレベルに合わせてアメリカ映画やコミックを選び、活きた英語の会話やコミュニケーションを学ぶ。 また、背景となっているアメリカの社会や文化について考え、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第15回: まとめと復習 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第16回: ガイダンス ・第17回～第25回: 基本のコミュニケーション <p>買物をする、レストランで注文する、物の貸し借りをする、クレームを伝える。 また、英語の音と日本語の音の違いについて学び、発音し分けられるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回～第29回: アメリカ社会におけるコミュニケーション <p>受講者の興味やレベルに合わせてアメリカ映画やコミックを選び、活きた英語の会話やコミュニケーションを学ぶ。 また、背景となっているアメリカの社会や文化について考え、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第30回: まとめと復習 					
予習内容	<p>単語を調べ、英語の音声を聴いてくる。 なお、各回の予習時間は90分を目安としてください。</p>					
復習内容	<p>発話できなかったところや聞き取れなかったところを練習する。 なお、各回の復習時間は90分を目安としてください。</p>					